

薬学教育における成育医療の推進

オーガナイザー

串田一樹 (昭和薬大)
畝井浩子 (広島大病院薬)

わが国は少子化と高齢化が同時に進んでいる。特に出生数の減少が止まらないことから、次世代の社会を担う成育過程にある者の心身の健やかな成育が確保されることが重要な課題となっている。

また、第5次男女共同参画基本計画等によって、女性の社会参画拡大に向けた取り組みが求められていることから、女性のライフサイクルに合わせた医療、福祉の提供が重要となる。

このような背景の中で、薬剤師は医

療の担い手の1人としての役割があり、また薬局は健康サポート機能の推進が期待されている。少子化に対しては、人のライフサイクルに合わせて次世代に健康をつなぐ視点が大切で、次世代への健康教育が不可欠である。

薬学生は、その多くが18歳から20代の次世代でもあり、当事者として、そしてこれから薬剤師になる立場として、薬学教育における成育医療の教育が必要である。

今回、本シンポジウムを多様化・高度化する成育過程に対する薬剤師の役割について、薬学教育の視点からコンセンサスを得る機会とする。

(串田一樹)

日本発・顧みられない熱帯病創薬におけるパートナーシップの最前線(2021)

オーガナイザー

山田陽城 (北里大名誉教授)
野崎智義 (東大院医)

世界保健機関が20疾患を指定し、世界人口のおよそ6分の1が感染に晒されている顧みられない熱帯病(NTDs)は、患者が途上国の貧困地域に多いことから、治療ニーズが高いにも関わらず、市場性に乏しく既存のメカニズムによる医薬品開発は困難である。

NTDsを含む感染症治療薬の開発には、アカデミアや製薬企業の有する高い創薬力を結集した産官学のパートナーシップによる医薬品開発の新たな

メカニズムが必要となっている。

本シンポジウムでは、わが国の製薬企業やアカデミアにおいてNTDs治療薬の探索から臨床までの開発プロジェクトに携わる皆さんから、パートナーシップによる取り組みの最前線を紹介していただく。

このようなプロジェクトは、GHITファンドなどによる資金的支援と、産学の無償の人的協力に加え、それらを結びつけるDNDiとによって現実のものとなっている。

途上国で苦しむ患者に対する治療薬が日本の協力によって研究・開発され、現地の治療に役立つ日も近い。

(山田陽城)

創薬・医療応用を目指したnon-P450薬物代謝酵素の最新知見

オーガナイザー

荒川大 (金沢大院医薬保)
深見達基 (金沢大院医薬保)

薬物の解毒を担う薬物代謝酵素は薬物動態において重要な役割を果たすが、時に活性代謝物の産生に関与し、薬物毒性の発症にも関与する。このため、薬物の動態と毒性の両面から機能解明が進められている。

代表的な代謝酵素であるシトクロムP450は、臨床で使用される医薬品の多くを代謝するが、薬物間相互作用を避ける目的で近年ではP450による代

謝を免れるよう創薬される傾向があり、P450以外の酵素(non-P450酵素)に注目が集まっている。

しかし、依然としてこれらの機能や調節因子に関する知見が少なく、薬物動態および毒性の予測が難しい現状である。

これらの背景から、本シンポジウムではnon-P450酵素の理解を深めることを目的に、主要な薬物代謝反応である酸化、還元、加水分解、抱合反応などnon-P450酵素の最新知見を紹介し、創薬や医療へどのように応用していくか議論する。

(荒川大)

エクソソームで挑む新たなDDSの創製

オーガナイザー

中村孝司 (北大院薬)
辻畑茂朝 (富士フィルム)

近年のエクソソーム研究の進展は目覚ましく、この10年間に数多くの重要な知見が蓄積され、病気の診断・治療への応用が試みられている。

エクソソームは、エンドソーム由来の細胞外小胞であり、脂質膜、蛋白質、核酸などから構成される。様々な生理活性物質を含んでおり、エクソソーム自身が輸送体となって細胞間コミュニケーションにおける重要な役割を担う。そのため、エクソソームは極めて

精密に制御された組織・細胞選択性を持つdrug delivery system(DDS)として非常に注目されている。

エクソソームのDDSへの応用がもたらした従来のDDS技術の壁を越えた新たな技術革新とは何か。本シンポジウムでは、エクソソームDDS研究を牽引する第一人者の先生方に、「エクソソームが解決するDDSの課題」と「エクソソームがもたらす新しいDDS」についての最先端の知見をご紹介いただき、エクソソームを基盤としたDDS研究のアップグレードと多様な創薬モダリティへの応用について議論したい。

(中村孝司)

長井記念薬学研究奨励支援事業の現状と採用者からのメッセージ

オーガナイザー

佐治木弘尚 (岐阜薬大)
細谷健一 (富山大院薬)
松田正 (北大院薬)

日本薬学会では、博士の学位を取得して薬学の発展に寄与する強い意志を持った研究者育成を目指し、本会会員の学位取得に向けた研究専念環境確保を目的として、2015年から長井記念薬学研究奨励支援事業を推進している。発足から5年、長井記念薬学研究奨励金を受けて学位を取得し、薬学研究者として活躍している方も出てきている。

本シンポジウムでは、高倉喜信会頭

に「長井記念薬学研究奨励支援事業の趣旨と意義・経緯」を中心にご講演いただいた後、奨励金を有効に利用して学位を取得した上で、薬学研究者として活躍している皆さんに「採用されてどう変わったか」「どのような研究を遂行したのか・しているのか」「どのような研究者を目指したいか」「後輩学生へのメッセージ」などの思いをお話しいただき、長井記念薬学研究奨励支援事業の検証と周知を図りたいと考えている。

最後に、佐々木茂貴次期会頭候補副会頭(新会頭)に「総括と本事業が目指すところ」としてまとめていただく。(佐治木弘尚)

生活習慣病研究の進展と創薬への展開

オーガナイザー

榎山暁史 (明治薬大)
中津祐介 (広島大院医科学)

近年、生活習慣病患者数は急激に増加しており、創薬においても重要なターゲット領域の一つとなっている。実際、糖尿病や高尿酸血症等に加え、非アルコール性脂肪性肝炎や肥満等が新たな問題として浮上している。そのため、近年の精力的な新薬開発をもってしても、疾患を制圧したとは言えず、新たな発想に基づく薬剤の開発が強く求められている。

代謝は、膵臓・肝・筋肉・脂肪・血

管・神経等、多くの臓器がその調節に複雑に関与しており、未だ全容解明には至っていないのが現状である。従って、各臓器での代謝調節機構や臓器連関の解明がアンメットメディカルニーズに応える上でも必要不可欠となっている。

本シンポジウムは、肥満・糖尿病・高尿酸血症・高血圧などの生活習慣病発症につながるメカニズムの最新情報の概説に加え、新規治療薬開発の足がかりとなる知見を新進気鋭かつ第一人者となると期待される研究者が紹介・討論することを目的に企画した。

(榎山暁史)

有機合成化学の若い力：複雑分子を操る有機合成化学者たち

オーガナイザー

重野真徳 (東北大院薬)
澁谷正俊 (名大院創薬)
隅田有人 (金沢大院医薬保)

有機合成化学は、有機分子の共有結合を精密に構築する方法論をもたらす唯一無二の学問領域である。生理活性物質の探索研究や創薬、プロセス化学など、医薬品開発研究においても、その根幹をなす科学技術に位置づけられる。日本のお家芸とも言える分野であり、先達によって大きく発展してきた。

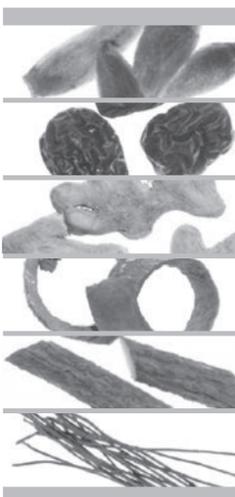
しかし、今なお数多くの挑戦的課題がある。例えば、超高効率・超高選択的な分子変換反応や難攻不落とされる

生理活性天然物の合成など、本領域のさらなる深化と拡充が望まれる。

加えて、有機合成化学を基盤とした新機能や新現象の創出(薬学的には、生命現象の解明、制御)への貢献も重要である。

本シンポジウムでは、本領域で活躍する若手研究者の最先端の研究成果と研究哲学を紹介する内容を企画した。具体的には、中分子の短工程全合成、ヒストンメチル化酵素複合体の機能制御、五つの不斉炭素中心を持つTAK-480の工業的製造法の確立、特異なカゴ状分子の全合成、トポロジカル分子集合体の構築について紹介する。

(重野真徳)



伝統と経験を未来へ

テイコク漢方



医療用漢方製剤

47品目 薬価基準準拠

●包装/42包入・252包入・500g

販売元  帝國製薬株式会社
香川県東かがわ市三本松567番地

製造販売元  帝國漢方製薬株式会社
徳島県阿波市土成町土成字北原80番11

〈製品情報お問い合わせ先〉
医薬営業部 製品情報室
TEL:0120-189-567
受付時間/月～金 9:00～17:30(祝日、当社休日を除く)
☎ KAN-04-1-1711